

Oracle Discoverer for Windows

インストールおよびアップグレード・ガイド

リリース 4.1

2001 年 7 月

部品番号 : J03443-02

ORACLE®

Oracle Discoverer for Windows インストールおよびアップグレード・ガイド, リリース 4.1

部品番号: J03443-02

原本名: Oracle Discoverer Installation and Upgrade Guide Release 4.1 for Windows

原本部品番号: A87377-01

Copyright © 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
1 システム要件	
1.1 データベース要件	1-2
1.1.1 Oracle データベース	1-2
1.1.2 Oracle 以外のデータベース	1-2
1.2 クライアント・プラットフォーム要件	1-3
2 Oracle Discoverer のインストール	
2.1 デフォルト・インストールの実行	2-2
2.2 カスタム・インストールの実行	2-7
2.2.1 INTERSOLV DataDirect ドライバのインストール方法	2-12
3 Oracle Discoverer リリース 4.1 へのアップグレード	
3.1 リリース 3.1 End User Layer のエクスポート	3-2
3.2 Oracle Discoverer Administration Edition リリース 4.1 のインストール	3-2
3.3 リリース 3.1 End User Layer のアップグレード	3-3
3.3.1 管理サマリー・フォルダのアップグレード	3-5
3.3.2 外部サマリー・フォルダに関する注意事項	3-6
3.4 Oracle Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 へのユーザーのアップグレード	3-6
3.5 リリース 3.1 End User Layer の削除	3-7
3.6 Oracle Discoverer Administration Edition リリース 3.1 の削除	3-9

A エラー・メッセージ

A.1	データベース・エラー	A-1
A.2	EUL 所有者以外への通知	A-2
A.3	接続できない場合	A-2

索引

はじめに

Oracle Discoverer は次の 4 つのコンポーネントで構成されています。

- Oracle Discoverer Administration Edition for Windows (Discoverer Administration Edition、Discoverer Desktop Edition、SQL*Plus および SQL*Net を含む)
- Oracle Discoverer Desktop Edition for Windows (Discoverer Desktop Edition およびクライアント・ソフトウェアをデータベースに接続するための SQL*Net を含む)
- Oracle Discoverer 4i Plus (Web 上でレポートを作成および実行するために Java で作成された Discoverer Desktop Edition)
- Oracle Discoverer 4i Viewer (Discoverer Desktop Edition および Discoverer 4i Plus を使用して作成されたレポートを HTML で表示するためのツール)

このマニュアルは、Discoverer Administration Edition をインストールするための手順書です。

対象読者

このマニュアルは、Oracle Discoverer 管理者を対象としています。

関連マニュアル

この製品の詳細は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Oracle Discoverer Administration Edition for Windows 管理ガイド』
- 『Oracle Discoverer Desktop Edition for Windows ユーザーズ・ガイド』

表記規則

EUL（End User Layer）は、データベースと Discoverer 間のメタデータ・インタフェースを表します。

表記	意味
太字テキスト	テキスト中、太字で示された部分は、コマンド名、メニュー名、ファイル名、キーボードのキーまたはその他の選択事項を表します。
イタリック・テキスト	イタリックで表記されたテキストは関数等の変数を表します。
<>	ユーザーが指定する名前を、このカッコで囲んで表します。
[]	ユーザーが選択可能な（または選択しなくてもよい）オプション句を、このカッコで囲んで表します。
「メニュー名」→「コマンド」	この形式のテキストは一連の選択項目を表します。たとえば、まずメニューを選択し、次にそのメニューのコマンドを選択します。
固定幅フォント (Courier text)	この書体のテキストはタイプ入力するコマンドラインを表します。

システム要件

この章では、次の内容について説明します。

- データベース要件
 - Oracle データベース
 - Oracle 以外のデータベース
- クライアント・プラットフォーム要件

注意：SQL*Plus は、ここで指定される用途にのみ使用できる「限定使用プログラム」です。この限定使用プログラムは、Oracle Discoverer リリース 4.1 の接続テストにのみ使用できます。一般的なデータ処理または前述の指定事項以外の目的には使用できません。

1.1 データベース要件

1.1.1 Oracle データベース

Oracle データベースで Discoverer Administration Edition を使用するには、次の Oracle データベースおよびサポート・ソフトウェアの 1 つがインストールされている必要があります。

- Oracle8 で、サーバー上に Net8 リスナーがインストールされ、動作していること
- Personal Oracle8

注意：Discoverer は、クライアント / サーバー構成のみで Personal Oracle 8.0.3 をサポートします。同一マシン上での Personal Oracle 8.0.3 ではサポートされません。

- Oracle7 リリース 7.1.6 以降
- Personal Oracle7 リリース 7.3 以降で、サーバー上に SQL*Net がインストールされ、動作していること

注意：Personal Oracle7 で Discoverer を使用するためには、SQL*Net Add-on をインストールする必要があります。Add-on のインストール方法は、リリース・ノートを参照してください。

1.1.2 Oracle 以外のデータベース

注意：日本語版は ODBC 接続をサポートしていません。

Discoverer の ODBC 互換性によって、Oracle 以外のデータソースでも Discoverer Administration Edition を使用できます。

Discoverer は、次の ODBC ソースをサポートします。

- Microsoft SQL Server リリース 6.5 に Service Pack 4 を適用したもの
- ODBC レベル 2 準拠のデータソース（特定の製品とバージョンの詳細は、リリース・ノートを参照してください。）

1.2 クライアント・プラットフォーム要件

Oracle Discoverer を使用するには、次の仕様が必要です。

- 486/66Mhz 以上のマシン
- Windows 95、Windows 98、Windows 2000、Windows NT バージョン 4.0
- クライアント・プラットフォームにインストールされた Net8 クライアント（Discoverer のインストール時にインストールされます）、さらに、データベース・サーバーに接続するための適切なネットワーク・プロトコル（TCP/IP など）
- クライアント・マシンとデータベース・サーバー間で、ネットワークが確立され、データベースが接続されていること
- 最小限必要な RAM サイズ

Windows 95	Windows NT	Windows 2000
32 MB	64 MB	128MB

- 最小限必要なディスク領域
 - マシン上に初めて Oracle8 クライアント製品をインストールする場合

	Discoverer Desktop Edition	Discoverer Desktop Edition および Administration Edition
完全インストール	220 MB	260 MB
最小インストール	150 MB	170 MB

- マシン上にすでに Oracle8 クライアント製品がインストールされている場合

	Discoverer Desktop Edition	Discoverer Desktop Edition および Administration Edition
完全インストール	110 MB	150 MB
最小インストール	40 MB	60 MB

注意：前述のディスク領域の要件は、一般的なシステム構成に基づいたものです。実際の数値は、ハード・ドライブのサイズおよび使用するファイル・システムの形式によって異なる可能性があります。

Oracle Discoverer のインストール

Oracle Discoverer for Windows は、次の 2 通りの方法でインストールできます。

- Oracle Discoverer Desktop Edition および Oracle Discoverer Administration Edition をインストールするデフォルト・インストール
- インストールする Oracle Discoverer コンポーネントを選択できるカスタム・インストール

2.1 デフォルト・インストールの実行

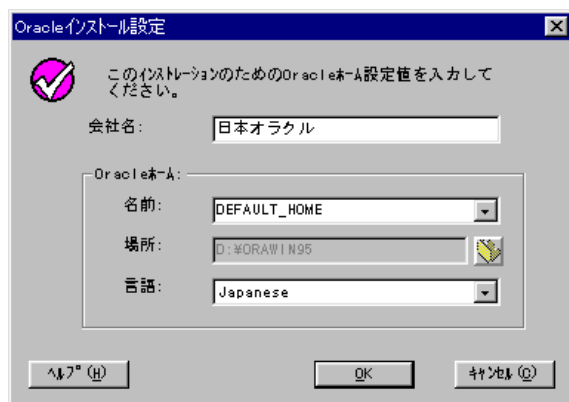
Oracle Discoverer Desktop Edition および Oracle Discoverer Administration Edition がインストールされる Oracle Discoverer for Windows のデフォルト・インストールは、次の手順で実行します。

1. Oracle Discoverer のインストール用 CD-ROM を、コンピュータの CD-ROM ドライブに挿入します。

Oracle Installer が自動的に起動されます。自動的に起動されない場合は、Windows のエクスプローラを使用して CD-ROM にアクセスし、CD-ROM のルート・ディレクトリから **setup.exe** を実行してください。

Oracle Installer のロードが完了すると、「**Oracle インストール設定**」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 2-1 Oracle インストール設定



2. 「会社名」フィールドに会社名を入力します。
3. Oracle Discoverer リリース 4.1 をインストールする位置として、「名前」フィールドでデフォルトの「ORACLE_HOME」を選択します。

Oracle Discoverer リリース 4.1 でサポートされる ORACLE_HOME は 1 つのみ（デフォルトの ORACLE_HOME）です。

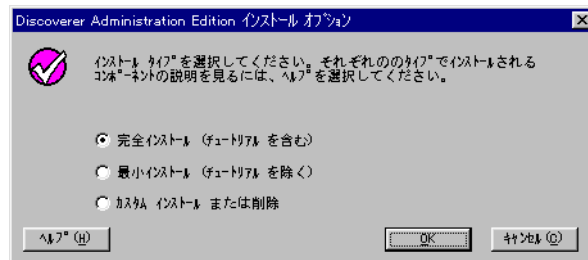
マシン上にすでに Oracle 製品がインストールされている場合、デフォルトの ORACLE_HOME はすでに定義されているため、「場所」フィールドはグレー表示になります。

4. マシンに Oracle 製品を初めてインストールする場合は、「場所」フィールドに表示されたデフォルト・ディレクトリを受け入れるか、別のディレクトリを指定します（ディレクトリ・パスを直接入力するか、参照ボタンをクリックしてそのディレクトリにナビゲートします）。
5. ドロップダウン・リストから、Oracle Discoverer で使用する言語を選択します。
6. 「OK」ボタンをクリックして先に進みます。

注意：マシンに Personal Oracle7 または Personal Oracle8.0.3 がインストールされている場合は、「一般情報」メッセージ・ボックスが表示されます。手順を進める前に、Oracle Discoverer のインストール用 CD-ROM の readmja.html ファイルを参照して、インストールに関する特別な指示を確認してください。

「Discoverer Administration Edition インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 2-2 Discoverer Administration Edition インストール・オプション



7. 次のオプションから 1 つを選択します。

「完全インストール（チュートリアルを含む）」－ Administration Edition、Discoverer Desktop Edition およびチュートリアル・セットアップ・ファイルを含む Discoverer のすべてのパッケージがインストールされます。

「最小インストール（チュートリアルを除く）」－ Administration Edition および Discoverer Desktop Edition ソフトウェアがインストールされます。オンライン・マニュアルはインストールされません。

「カスタム インストールまたは削除」－ インストール可能なすべての項目のリストが表示されます。必要なディスク容量は選択によって異なります。

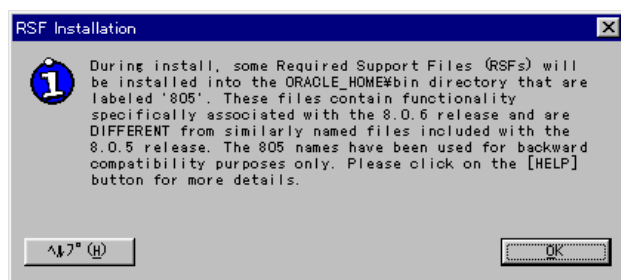
8. 「OK」 ボタンをクリックして先に進みます。

「カスタム インストールまたは削除」を選択した場合は、[2.2 項「カスタム・インストールの実行」](#)を参照してください。

Oracle Installer により、必要なソフトウェアがインストールされ、適切なプログラム・グループとアイテムが作成されます。

マシン上にすでにインストールされているものに応じて、Required Support Files のインストールの確認を求めるダイアログが表示されることがあります。

図 2-3 「RSF Installation」 ダイアログ・ボックス



9. 「RSF Installation」 ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」 をクリックして操作を続けます。

マシン上にすでにインストールされているものに応じて、GUI 共通ファイルのディレクトリを指定するためのダイアログが表示されることがあります。

図 2-4 「ディレクトリ選択」 ダイアログ・ボックス



10. 「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

マシン上にすでにインストールされているものに応じて、Discoverer System Support Files のインストールの確認を求めるダイアログが表示されることがあります。

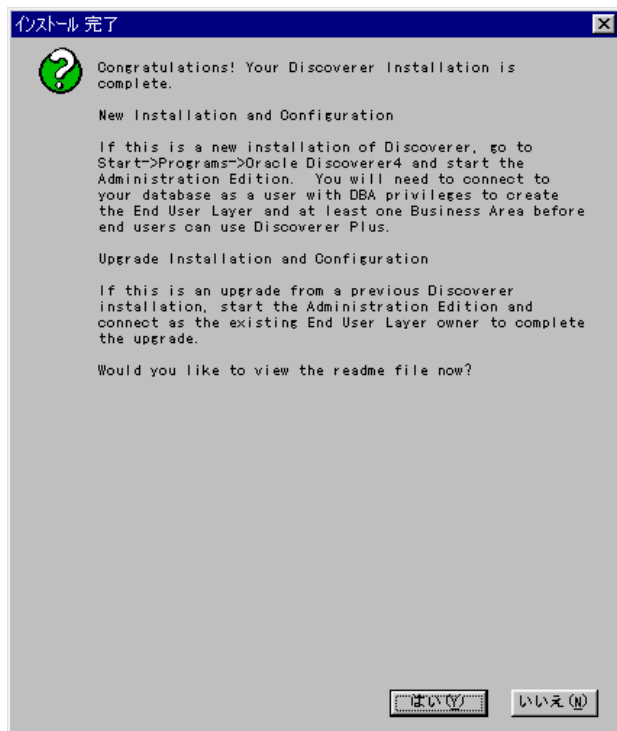
図 2-5 「Discoverer System Support Files」ダイアログ・ボックス



11. 「Discoverer System Support Files」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

「インストール完了」ダイアログ・ボックスが表示され、README ファイルを表示するかどうかを選択します。

図 2-6 「インストール完了」ダイアログ・ボックス

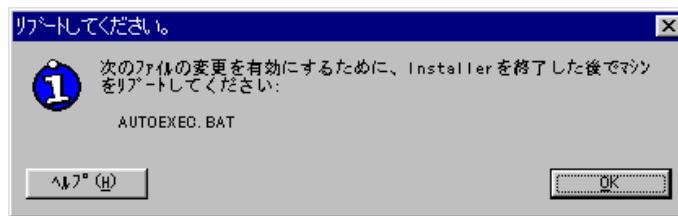


12. 「はい」をクリックすると、README ファイルが表示されます。Oracle Installer は自動的にクローズされます。

これでこのレッスンは終了です。インストール作業は完了しました。

マシン上にインストールされているものに応じて、マシンの再起動を求めるダイアログが表示されることがあります。

図 2-7 「リポートしてください。」ダイアログ・ボックス



13. 「リポートしてください。」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

Discoverer Administration Edition で作業を開始する準備が整いました。

次のステップ

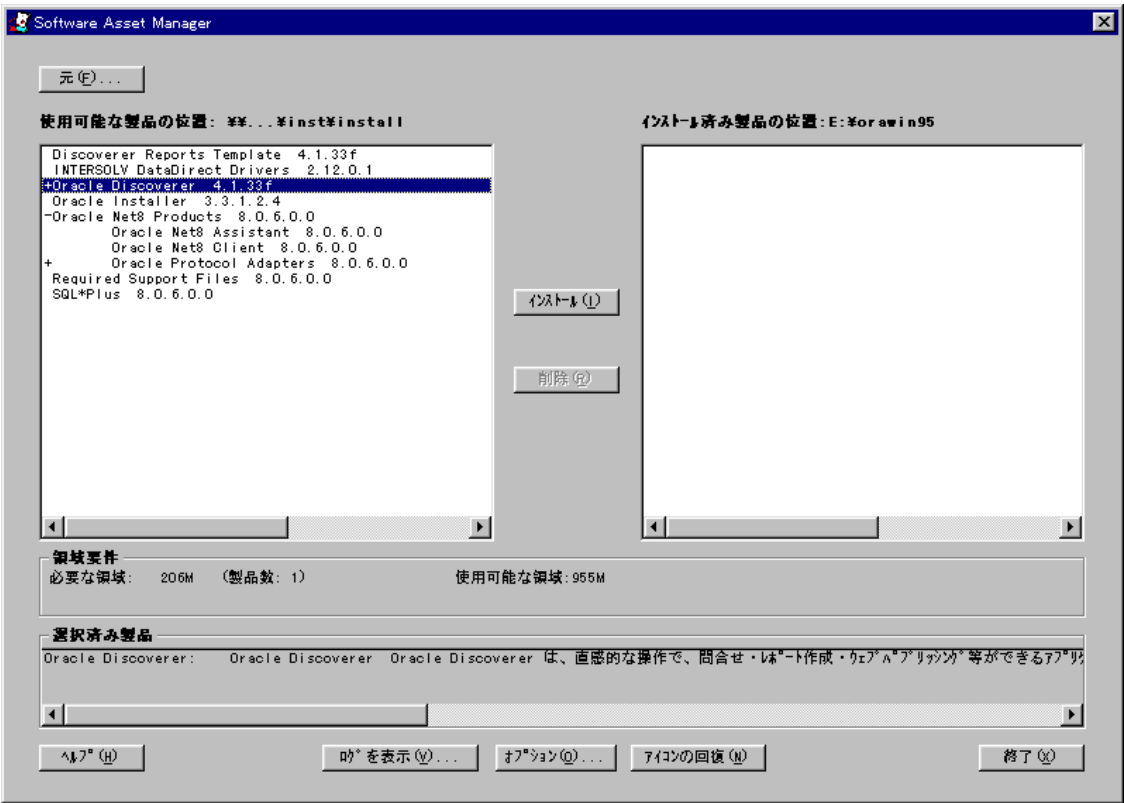
- 今回、初めて Oracle Discoverer をインストールした場合は、次のステップとしてデータベースにアクセスして End User Layer を作成します。詳細は、『Oracle Discoverer Administration Edition for Windows 管理ガイド』を参照してください。
- Discoverer 3.1 からアップグレードする場合は、[第3章「Oracle Discoverer リリース 4.1 へのアップグレード」](#)を参照してください。

2.2 カスタム・インストールの実行

インストールする Oracle Discoverer コンポーネントを選択するには、次のようにします。

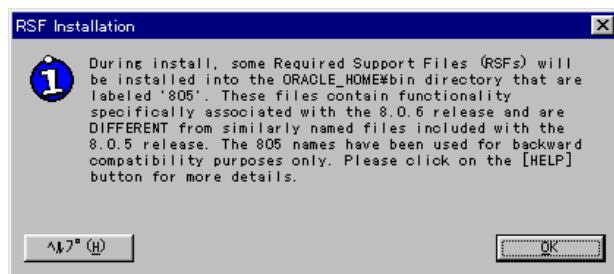
1. [2.1 項「デフォルト・インストールの実行」](#)の指示に従って、「Discoverer Administration Edition インストール・オプション」ダイアログを表示します。
2. 「Discoverer Administration Edition インストール・オプション」ダイアログ・ボックスで「カスタム インストールまたは削除」を選択します。
「Software Asset Manager」が表示されます。

図 2-8 Software Asset Manager



3. インストールする適切なソフトウェアを「使用可能な製品」のリストから選択し、「インストール」をクリックして作業を続けます。
- Oracle Installer により、必要なソフトウェアがインストールされ、適切なプログラム・グループとアイテムが作成されます。
- マシン上にすでにインストールされているものに応じて、Required Support Files のインストールの確認を求めるダイアログが表示されることがあります。

図 2-9 「RSF Installation」 ダイアログ・ボックス



4. 「RSF Installation」 ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

「ディレクトリ選択」 ダイアログ・ボックスが開きます。

図 2-10 「ディレクトリ選択」 ダイアログ・ボックス



5. Administration Edition および Discoverer Desktop Edition をインストールするディレクトリを指定します。デフォルト・ディレクトリは、[ORACLE_HOME]¥discvr4 です。

警告： Discoverer リリース 4.1 を Discoverer リリース 3.1 と同じディレクトリにインストールすることはできません。Discoverer リリース 3.1 が使用できなくなります。ORACLE_HOME 内の別のディレクトリに Discoverer リリース 4.1 をインストールすると、3.1 と 4.1 の両方のリリースを実行できます。

マシン上にすでにインストールされているものに応じて、GUI 共通ファイルのディレクトリを指定するためのダイアログが表示されることがあります。

図 2-11 「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックス



6. 「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

マシン上にすでにインストールされているものに応じて、Discoverer System Support Files のインストールを確認するためのダイアログが表示されることがあります。

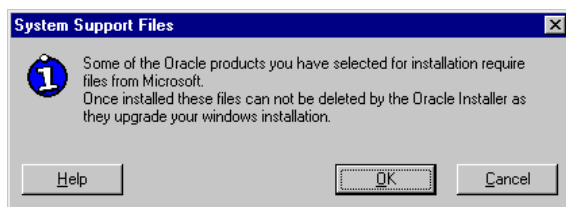
図 2-12 「Discoverer System Support Files」ダイアログ・ボックス



7. 「Discoverer System Support Files」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

マシン上にすでにインストールされているものに応じて、System Support Files のインストールを確認するためのダイアログが表示されることがあります。

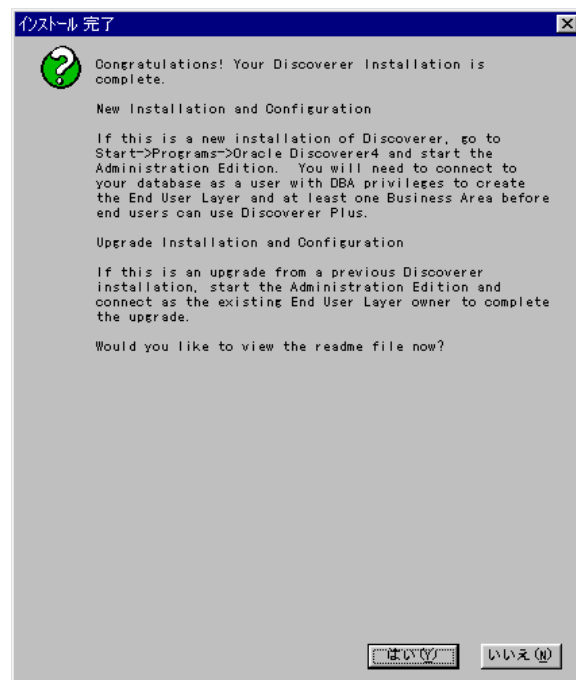
図 2-13 「System Support Files」 ダイアログ・ボックス



8. 「System Support Files」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

「インストール完了」ダイアログ・ボックスが表示され、README ファイルを表示するかどうかを選択します。

図 2-14 「インストール完了」ダイアログ・ボックス

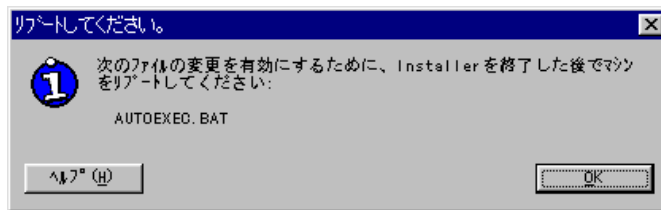


9. 「はい」をクリックすると、README ファイルが表示されます。
10. README ファイルを読み終えたら、「終了」をクリックして、Software Asset Manager をクローズします。

これでこのレッスンは終了です。インストール作業は完了です。

マシンにインストールされているものに応じて、マシンの再起動を求めるダイアログが表示されることがあります。

図 2-15 「リポートしてください。」ダイアログ・ボックス



11. 「リポートしてください。」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

2.2.1 INTERSOLV DataDirect ドライバのインストール方法

ODBC を使用してデータソースに接続する際、そのデータソースのベンダーから ODBC ドライバが提供されていない場合には、Discoverer インストレーションで提供される INTERSOLV DataDirect ドライバを次のようにインストールできます。

1. 「Software Asset Manager」ウィンドウの「使用可能な製品」リストから、「**INTERSOLV DataDirect Drivers 2.12.0.1**」を選択します。

「**INTERSOLV DataDirect ドライバ選択**」ダイアログ・ボックスが表示されます。

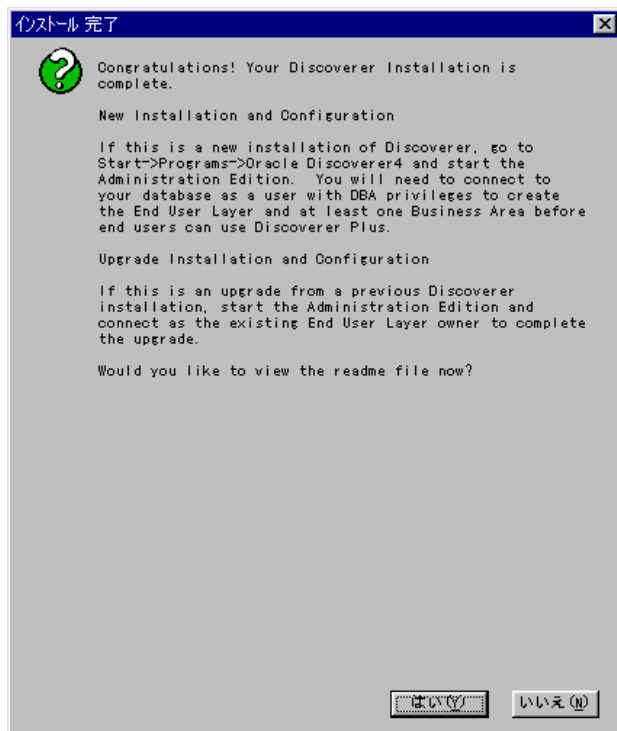
図 2-16 INTERSOLV DataDirect ドライバ選択



2. データソースに適した INTERSOLV DataDirect ドライバを選択して「OK」をクリックします。

Oracle Installer により、必要なソフトウェアがインストールされ、適切なプログラム・グループとアイテムが作成されます。「インストール完了」ダイアログ・ボックスが表示され、README ファイルを表示するかどうかを選択します。

図 2-17 「インストール完了」ダイアログ・ボックス

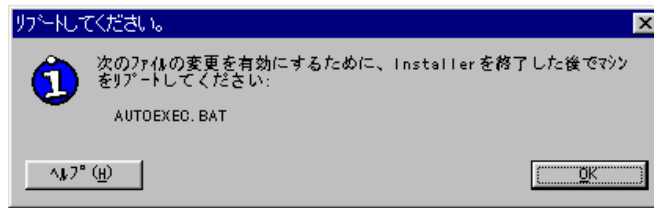


3. 「はい」をクリックすると、README ファイルが表示されます。
4. 終了した後、Oracle Installer に戻り、「終了」を選択します。

これでこのレッスンは終了です。インストール作業は完了しました。

マシン上にインストールされているものに応じて、マシンの再起動を求めるダイアログが表示されることがあります。

図 2-18 「リポートしてください。」ダイアログ・ボックス



5. 「リポートしてください。」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「OK」をクリックして操作を続けます。

Discoverer Administration Edition で作業する準備が整いました。

次のステップ

- 今回、初めて Oracle Discoverer をインストールした場合は、次のステップとしてデータベースにアクセスして End User Layer を作成します。詳細は、『Oracle Discoverer Administration Edition for Windows 管理ガイド』を参照してください。
- Oracle Discoverer 3.1 からアップグレードする場合は、[第 3 章「Oracle Discoverer リリース 4.1 へのアップグレード」](#)を参照してください。

Oracle Discoverer リリース 4.1 へのアップグレード

この章では、Oracle Discoverer リリース 3.1 から Oracle Discoverer リリース 4.1 へアップグレードする方法を説明します。

Discoverer リリース 4.1 へのアップグレードは、現行バージョンの Discoverer の End User Layer (EUL) 表を使用してリリース 4.1 EUL に作成し直すといった簡単なプロセスです。

Discoverer リリース 3.1 からリリース 4.1 へのアップグレードは、段階的に新規リリースに移行できるように設計されています。End User Layer (EUL) のアップグレードは非破損のアップグレードで、アップグレード・プロセス中にリリース 3.1 EUL がコピーされ、リリース 4.1 EUL にアップグレードされます。そのため、既存のユーザーは、アップグレード・プロセスの間にも Discoverer リリース 3.1 で作業を継続することができます。

このプロセスには次のステップが含まれます。

- [リリース 3.1 End User Layer のエクスポート](#)
- [Oracle Discoverer Administration Edition リリース 4.1 のインストール](#)
- [リリース 3.1 End User Layer のアップグレード](#)
- [Oracle Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 へのユーザーのアップグレード](#)
- [リリース 3.1 End User Layer の削除](#)
- [Oracle Discoverer Administration Edition リリース 3.1 の削除](#)

3.1 リリース 3.1 End User Layer のエクスポート

Oracle Discoverer リリース 4.1 へアップグレードする前に、まずデータベースのエクスポート・コマンドを使用して、EUL 表をエクスポートする必要があります。エクスポートしたこのファイルは、現行の EUL のバックアップになります。

1. Windows の「スタート」メニューから、「**MS-DOS プロンプト**」(Windows 95/98) または「**コマンド プロンプト**」(Windows NT) を選択して、MS-DOS ウィンドウを表示します。
2. <ORACLE_HOME>%discvr31 のディレクトリにナビゲートします。

たとえば、MS-DOS ウィンドウに現在 C: が表示されていて、<ORACLE_HOME> ディレクトリが D:\orant の場合には、次のようにします。

- D: と入力し、[Enter] を押します。
- cd %orant%\discvr31 と入力し、[Enter] を押します。

3. プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
exp80 [EULowner]/[password] file=[filename.dmp] owner=[eulowner]
```

例: exp80 HReul/HRpswrd@HRDB file=hreul.dmp owner=hrmgr

すべての EUL 表とそれに対応付けられたシノニム、ビューおよびその他の定義のすべてがエクスポートされると、次のメッセージが表示されます。

「エクスポートは警告なしで終了しました。」

*.dmp ファイルは、<ORACLE_HOME>%discvr31 ディレクトリにエクスポートされています。

4. EUL ごとに、手順 1 から手順 3 を繰り返します。

これで Discoverer リリース 4.1 にソフトウェアをアップグレードする準備が整いました。

3.2 Oracle Discoverer Administration Edition リリース 4.1 のインストール

Discoverer リリース 3.1 の EUL をエクスポートした後、[第 2 章「Oracle Discoverer のインストール」](#)の指示に従って、Oracle Discoverer Administration Edition リリース 4.1 をインストールしてください。

警告: Discoverer リリース 4.1 は、Discoverer リリース 3.1 と同じディレクトリにインストールできません。Discoverer リリース 3.1 が使用できなくなります。ORACLE_HOME 内の異なるディレクトリに Discoverer リリース 4.1 をインストールすると、3.1 と 4.1 の両方のリリースを使用できます。

3.3 リリース 3.1 End User Layer のアップグレード

Oracle Discoverer リリース 4.1 をインストールした後、リリース 3.1 で作成された EUL をアップグレードして、リリース 4.1 で作業できるようにする必要があります。

EUL をアップグレードするには、EUL の所有者に次の権限が必要です。

- CREATE PROCEDURE
- CREATE SESSION
- CREATE TABLE
- CREATE VIEW
- CREATE SEQUENCE

Oracle 8.1.6（またはそれ以上）のデータベースにアップグレードする場合は、サマリーがマテリアライズド・ビューとして実装されるため、EUL の所有者に次の権限が必要です。

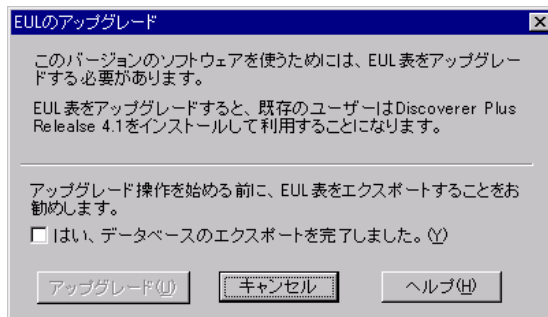
- CREATE ANY MATERIALIZED VIEW
- DROP ANY MATERIALIZED VIEW
- ALTER ANY MATERIALIZED VIEW

警告：リリース 4.1 EUL に転送されるデータの整合性を保つためには、アップグレードの進行中に、管理者セッションをリリース 3.1 EUL 上で開かないようにすることが重要です。

1. Windows の「スタート」メニューから、「プログラム」→「Oracle Discoverer 4」→「Administration Edition」を選択します。
2. アップグレードする Discoverer リリース 3.1 EUL のユーザー名とパスワードを入力します。

「EUL のアップグレード」ダイアログ・ボックスが表示され、そこで EUL をアップグレードするためのプロンプトが自動的に表示されます。

図 3-1 EUL のアップグレード



3. チェック・ボックスをクリックして、Discoverer 3.1 EUL をエクスポートしたことを確認します。

注意：リリース 3.1 EUL をまだエクスポートしていない場合は、作業を進める前に、[3.1 項「リリース 3.1 End User Layer のエクスポート」](#)を参照してください。

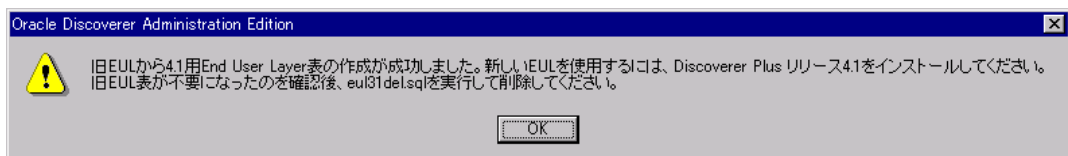
4. 「アップグレード」をクリックします。

「アップグレード」を選択すると、リリース 3.1 EUL からコピーしたデータを使用して、新規のリリース 4.1 EUL が作成されます。リリース 4.1 EUL を所有するアカウントは、リリース 3.1 EUL を所有するアカウントと同じになります。既存のリリース 3.1 ユーザーには、このアップグレードによる影響はありません。

Discoverer リリース 3.1 でサマリー・フォルダを使用している場合は、そのステータスが「要リフレッシュ」に設定されます。

EUL をアップグレードするように選択すると、EUL アップグレード進行状況バーにアップグレード状況が表示されます。アップグレードが完了すると、次のメッセージが表示されます。

図 3-2 Oracle Discoverer Administration Edition の EUL アップグレード通知



これで EUL のアップグレードが完了しました。この EUL は、Discoverer Administration Edition リリース 4.1 を使用してデータベースに接続するときに使用します。EUL を準備した後、ユーザーの使用する User Edition リリース 3.1 を Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 にアップグレードします。

3.3.1 管理サマリー・フォルダのアップグレード

リリース 3.1 の管理サマリー・フォルダの定義は、新しいリリース 4.1 の EUL 内にコピーされます。ただし、アップグレード時にサマリー・データは収集されません。かわりに、サマリーのリフレッシュ・ステータスが「要リフレッシュ」に変更されます。

Discoverer Administrator が管理サマリー・フォルダをリフレッシュする場合、使用している Oracle データベースに応じて、次のいずれかの方法でフォルダがリフレッシュされます。

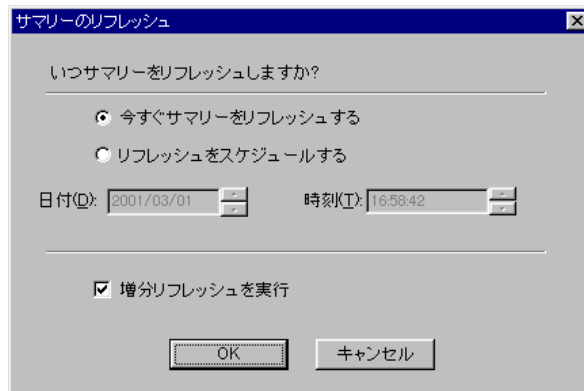
- 8.1.6 より前のデータベース – Discoverer は、Discoverer リリース 3.1 で使用されていたのと同じサマリー表を作成します。
- 8.1.6 以降のデータベース – Discoverer は、マテリアライズド・ビューを作成します。

サマリーとマテリアライズド・ビューの詳細は、『Oracle8i 概要』を参照してください。

サマリー（8.1.6 より前のデータベース）とマテリアライズド・ビュー（8.1.6 以降のデータベース）を作成すると、それらを使用して Discoverer Desktop Edition の問合せを最適化できます。

1. 「ツール」メニューから「サマリーのリフレッシュ」を選択します。Oracle Discoverer Administration Edition のメッセージ・ボックスが表示され、そこでサマリーのリフレッシュを選択できます。

図 3-3 「サマリーのリフレッシュ」ダイアログ・ボックス



2. サマリーをただちにリフレッシュするには、「OK」をクリックします。

データベース・サーバーで直接リフレッシュするようにスケジュールすることもできます。

次のステップは、User Edition リリース 3.1 を Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 にアップグレードすることです。すべてのユーザーをアップグレードし、Discoverer リリース 4.1 で問題なく作業が実行できることを確認したうえで、3.1 の EUL とそれに対応付けられたサマリー表を削除します。

3.3.2 外部サマリー・フォルダに関する注意事項

Discoverer の外部にサマリー・フォルダがある場合にも、リフレッシュが必要です。外部の独立したサマリー・フォルダのメタデータは、リフレッシュされたときに EUL 内で更新されます。Oracle 8.1.6 またはそれ以降を使用している場合は、外部の表を参照するデータベース・マテリアライズド・ビューを作成してください。

3.4 Oracle Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 へのユーザーのアップグレード

ユーザーをアップグレードするには、クライアント・マシンで Discoverer Desktop Edition CD-ROM を使用して、Oracle Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 をインストールします。Oracle Installer により、Discoverer リリース 3.1 とは別のディレクトリに Oracle Discoverer リリース 4.1 が自動的にインストールされます。

警告： Discoverer リリース 4.1 は、Discoverer リリース 3.1 と同じディレクトリにインストールできません。リリース 3.1 が使用できなくなります。<ORACLE_HOME> 内の異なるディレクトリに Discoverer リリース 4.1 をインストールすると、3.1 と 4.1 の両方のリリースを使用できます。

Discoverer リリース 3.1 からアップグレードするユーザーへの注意：

ユーザーがリリース 3.1 またはリリース 4.1 のいずれかで作業が継続できるように、アップグレードは段階的に実施できます。ただし、ユーザーが Discoverer リリース 3.1 と 4.1 を同時に使用している場合、一方のバージョンの Administration Edition を使用して変更した内容は、他方のバージョンのユーザーには反映されません。

ユーザーが Discoverer Desktop Edition に初めてログインしたときには、そのユーザーがアクセス権を持っているリリース 4.1 用の EUL を Discoverer が検索します。

- 有効な EUL が見つかった場合は、データベースに接続され、Discoverer リリース 4.1 で作業が可能な状態になります。
- 有効な EUL が見つからない場合は、データベースに接続できなかったことが通知されます。この場合、ユーザーはメッセージ内容をデータベース管理者に連絡してください。ただし、このユーザーは、既存のリリース 3.1 用の EUL に対して Discoverer User Edition リリース 3.1 を使用することは可能です。

Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 をインストールし、リリース 4.1 用の EUL を使用してデータベースへの接続が確立された後、Discoverer 4.1 の CD-ROM 内の Oracle Installer を使用して、ユーザーのマシンから Discoverer User Edition リリース 3.1 を削除します。

すべてのユーザーが Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 へのアップグレードを完了した後、Discoverer リリース 3.1 EUL とそれに対応付けられた表をデータベースから削除します。詳細は、[3.5 項「リリース 3.1 End User Layer の削除」](#)を参照してください。この手順により、Discoverer リリース 3.1 EUL に対応付けられた表を 4.1 EUL にコピーするために使用されていた表領域が解放されます。

3.5 リリース 3.1 End User Layer の削除

Discoverer リリース 4.1 へのユーザーのアップグレードが終了し、データベースへの接続がリリース 4.1 の EUL を使用して正しく確立された後、リリース 3.1 EUL を削除します。この処理は、SQL スクリプトを使用して実行します。このスクリプトでは、リリース 3.1 EUL とそれに対応付けられたすべての表（内部管理サマリー・フォルダを含む）が削除されます。

1. 「Oracle for Windows 95/NT」プログラム・グループから、「SQL Plus 8.0」を実行します。
2. EUL パスワードと接続文字列を使用して EUL 所有者としてログインします。
3. 次のように入力して SQL スクリプトを実行します。

```
SQL>@<ORACLE_HOME>\Discvr4\sql\%eul31del.sql
```

Discoverer End User Layer データベース表（3.1 製品）の削除スクリプトが表示されます。このスクリプトによって、リリース 3.1 EUL とそれに対応付けられたデータベース・オブジェクト（サマリー表も含む）が削除されます。

次のテキスト・メッセージが表示されます。

```
Removing summary refresh jobs ...
Discoverer End User Layer Database Tables (3.1 Production) deinstallation
This script will remove a version 3.1 EUL and any associated database
objects.
It will:
1. Ask you to enter the ORACLE SYSTEM password and connect string.
2. Ask you to enter the name and password of the 3.1 EUL owner.
```

3. Confirm that you wish to drop the 3.1 EUL.
 4. Check for database jobs for users other than the 3.1 EUL owner.
 5. Confirm whether to drop 3.1 tutorial tables (if any).
 6. Log in as the 3.1 EUL owner and remove any database jobs for it.
 7. Remove all summary database objects for the 3.1 EUL.
 8. Remove all scheduled workbook database objects for the 3.1 EUL.
 9. Remove the 3.1 EUL tables.
 10. Remove user and public synonyms (if any) for the 3.1 EUL tables.
4. ORACLE SYSTEM パスワードを入力します。
 5. データベース接続文字列を入力します。
 6. リリース 3.1 の EUL 所有者の名前とパスワードを入力します。

確認情報およびこのプロセスを元に戻せないという内容の警告が、次のようにテキストで表示されます。このプロセスによって、リリース 3.1 の End User Layer に影響が及ぶことはありません。

```
Preparing to remove EUL 3.1 owned by <username> at <today's date>
If you continue, the specified 3.1 End User Layer will be PERMANENTLY
dropped. All End User Layer information and workbooks stored in the database
will be deleted.
Any 4.1 End User Layer tables will NOT be affected by this process.
THIS PROCESS IS NON-REVERSIBLE.
Do you wish to continue [N]:
```

7. 「Y」と入力して、リリース 3.1 EUL の削除を確認します。

注意: デフォルトの回答（大カッコ（[]）で囲まれています）を選択する場合は、**[Enter]** を押します。

3.1 チュートリアル表が検出されると、それらを削除するかどうかの確認を求めるプロンプトが表示されます。

リリース 3.1 EUL の削除中、その EUL の所有者以外のユーザーが所有するサマリー・ジョブがないかどうかスクリプトによってチェックされます。

- 他のユーザーが所有するサマリー・ジョブがないときは、3.1 EUL が削除されます。削除プロセスの各段階で、次のような各種メッセージが表示されます。

```
Removing summary refresh jobs ...
Dropping internally managed summary data ...
Removing scheduled workbook jobs ...
Dropping scheduled workbook data ...
Dropping 3.1 End User Layer Tables ...
Removing public synonyms (if any) ...
```

Connected.

Finished removing 3.1 End User Layer.

- EUL 所有者以外のユーザーが所有するサマリー・ジョブがあるときは、次のメッセージが表示され、アップグレードが中断されます。

The following users have managed summaries which must be dropped before this EUL can be deinstalled:

User: SCOTT, Summary: Scott's Summary

User: FRED, Summary: Fred's Summary

etc.

Quitting - no changes made.

このメッセージが表示された場合は、指定されたユーザーが Administration Edition リリース 3.1 にログインし、指定されたサマリーを削除する必要があります。『Oracle Discoverer Administration Edition for Windows 管理ガイド』の第 15 章「サマリー・フォルダの削除」を参照してください。これらのサマリーを削除した後、スクリプト eul31del.sql を再実行して、リリース 3.1 用の EUL を削除します。

Oracle Discoverer をインストールまたはアップグレードする方法の詳細は、Discoverer リリース 4.1 の CD-ROM にある readmja.html ファイルを参照してください。

3.6 Oracle Discoverer Administration Edition リリース 3.1 の削除

Oracle Discoverer 管理者およびユーザーが Discoverer リリース 4.1 に接続し、サマリー・フォルダが動作していることを確認した後、Discoverer Administration Edition リリース 3.1 を削除できます。

1. Discoverer Administration Edition の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットすると、Oracle Installer が自動的に起動されます。自動的に起動されない場合は、Windows のエクスプローラを使用して CD-ROM にアクセスし、CD-ROM のルート・ディレクトリから **setup.exe** を実行してください。

Oracle Installer によるローディングが完了すると、「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 3-4 Oracle インストール設定



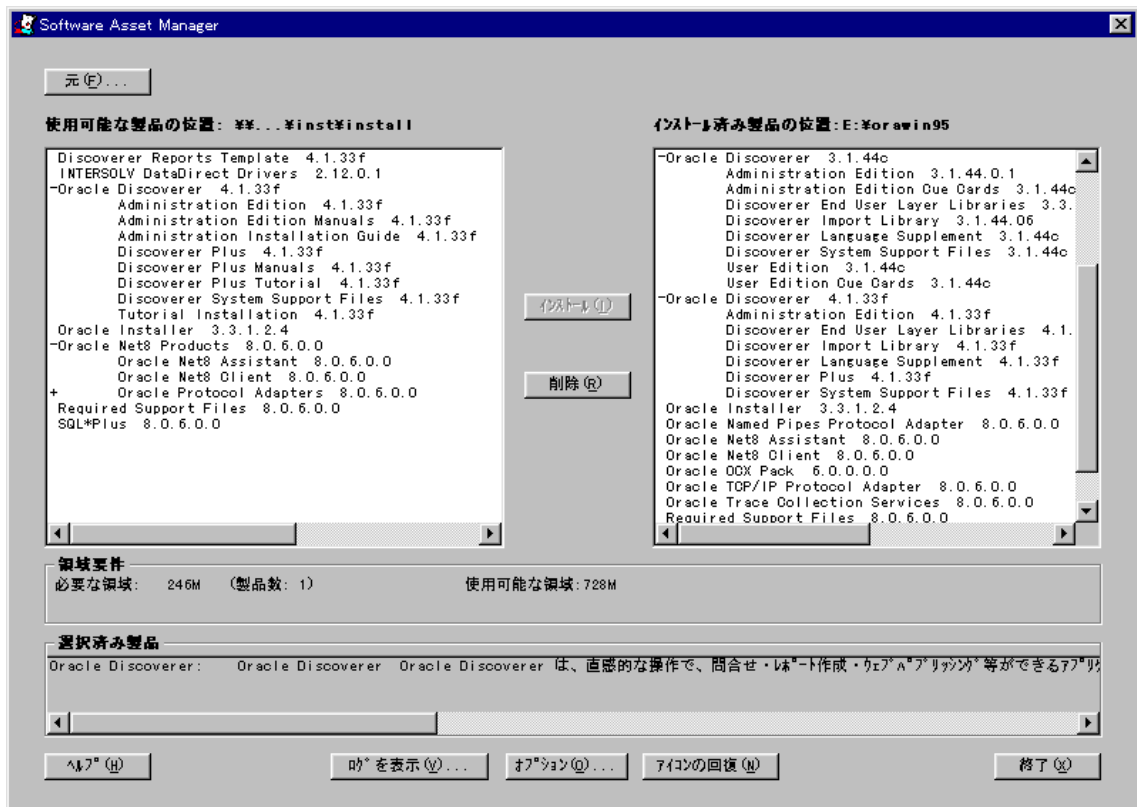
2. 「OK」 ボタンをクリックして先に進みます。「インストール オプション」 ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 3-5 Discoverer Administration Edition インストール・オプション



3. 「カスタム インストールまたは削除」を選択します。「Software Asset Manager」が表示されます。

図 3-6 Software Asset Manager



4. 右側のパネルから「Oracle Discoverer 3.1」を選択します。
5. 「削除」をクリックします。

Oracle Installer によって既存の実行ファイルおよびすべてのサポート・ファイルが削除されます。ただし、Discoverer リリース 3.1 で作成されたワークブックは、<ORACLE_HOME>%discvr31 ディレクトリに残っています。これらのワークブックを新しい %discvr4 のディレクトリに移動し、%discvr31 フォルダを削除することもできます。

6. Discoverer リリース 3.1 のワークブックを、リリース 4.1 で使用する新規ディレクトリに移動します。

これで、このレッスンは終了です。Discoverer Administration Edition および Discoverer Desktop Edition リリース 4.1 での作業を開始する準備が整いました。Administration Edition で行う作業の詳細は、『Oracle Discoverer Administration Edition for Windows 管理ガイド』を参照してください。

エラー・メッセージ

アップグレード中になんらかのエラーが発生すると、エラー・ダイアログが表示されます。問題を解決してから、再度 Administration Edition に接続してください。アップグレード・プロセスは、エラーが発生した時点から自動的に続行されます。EUL のアップグレード中に発生する可能性のあるエラー・メッセージには、次のものがあります。

A.1 データベース・エラー

ORA-01536: 表領域 [NAME] に対して割り当てられた領域を使い果たしました。

ORA-01653: 表 [NAME.NAME] を拡張できません ([NUM] 分、表領域 [NAME])。

原因: 新規 EUL がリリース 3.0.8 の EUL 所有者用にデフォルトの表領域内に作成されましたが、表領域が不足しています。

処置: デフォルトの表領域として利用できる空き領域を増やしてください。ユーザーのデフォルト表領域内に空き領域が少ないことが検出されると、アップグレードを開始する前に、警告が発せられます。

ORA-01562: ロールバック・セグメント番号 ID=[ID] を拡張できません。

ORA-01628: 最大エクステント [NUM] に達しました (ロールバック・セグメント [NUM])。

ORA-01650: ロールバック・セグメント [NAME] を拡張できません ([NUM] 分、表領域 [NAME])。

原因: ロールバック・セグメント用の領域が不足しています。リリース 3.1 の EUL からリリース 4.1 の EUL に情報を転送するときに、アップグレードによってデータベースのロールバック・セグメントに著しい負荷がかかることが原因です。

処置: ロールバック表領域用に空き領域を増やすか、使用可能なロールバック・セグメントの最大エクステント数を増やします。

ORA-00054: リソースビジー、NOWAIT が指定されていました。

ORA-00055: 最大 DML ロック数を超えました。

原因: アップグレード・プロセスでは、リリース 3.1 の情報がリリース 4.1 の EUL に渡されるときに、リリース 3.1 の EUL がロックされます。アップグレード中にリリース 3.1 の Discoverer セッションがあると、ロック・エラーが発生する可能性があります。

処置: アップグレード中は、リリース 3.1 の Discoverer セッションを接続しないようにします。

A.2 EUL 所有者以外への通知

End User Layers(EUL) へのアクセス権がありません。Discoverer を使用するためには EUL を少なくとも 1 つ作成する必要があります。ここで EUL を作成しますか？

原因: EUL 所有者以外のユーザーとして Administration Edition リリース 4.1 に接続している場合、または使用可能な 4.1 EUL がない場合に表示されます。

処置: アップグレードを実行するには、EUL 所有者として Discoverer Administration Edition にログインする必要があります。

A.3 接続できない場合

DCE.DLL バージョン 3.1 は End User Layer 表バージョン 3.1.0.7.0.0 以上を必要とします。

原因: User Edition リリース 3.1 でリリース 3.0.8 の EUL に接続しました。

処置: リリース 3.0.8 の EUL をアップグレードするか、新しくリリース 3.1 の EUL を作成してユーザーにアクセス権を付与してください。

接続できません。ユーザー : <user>

原因: リリース 4.1 EUL が使用可能でない状態で User Edition リリース 4.1 に接続しました。

処置: 新規に作成したリリース 4.1 用の EUL またはアップグレードしたリリース 4.1 用の EUL に対するアクセス権をユーザーに付与してください。

索引

D

Discoverer 3.1
 アップグレード, 3-1
 削除, 3-9
Discoverer 3.1 の削除, 3-9
Discoverer 4i Plus, iii
Discoverer 4i Viewer, iii
Discoverer Administration Edition
 3.1 の削除, 3-9
 インストール, 2-2
Discoverer Desktop Edition, iii
 インストール, 2-2

E

EUL
 3.1 EUL の削除, 3-7
 アップグレード, 3-3
 エクスポート, 3-2
EUL のエクスポート, 3-2

I

INTERSOLV DataDirect ドライバ, 2-12

O

ODBC
 INTERSOLV DataDirect ドライバ, 2-12
 準拠するデータソース, 1-2
Oracle Discoverer, 「Discoverer」を参照, iii
ORACLE_HOME, 2-2
Oracle7, 1-2

Oracle8
 Net8, 1-3
 Personal Oracle8, 1-2
 要件, 1-2

P

Personal Oracle8, 1-2

S

SQL*Plus, 1-1

あ

アップグレード
 Discoverer 3.1, 3-1
 EUL, 3-3
 外部サマリー・フォルダ, 3-6
 管理サマリー・フォルダ, 3-5

い

インストール
 Discoverer Administration Edition, 2-2
 Discoverer Desktop Edition, 2-2
 カスタム, 2-7
 デフォルト, 2-2

え

エラー・メッセージ, A-1

お

オペレーティング・システム, 1-3

か

外部サマリー・フォルダ, 3-6

カスタム・インストール, 2-7

管理サマリー・フォルダ、アップグレード, 3-5

く

クライアント・プラットフォーム要件, 1-3

け

言語, 2-2

さ

サマリー・フォルダ

アップグレード, 3-5, 3-6

外部, 3-6

て

ディスク領域要件, 1-3

データベース要件, 1-2

Oracle7, 1-2

Oracle8, 1-2

Personal Oracle8, 1-2

は

ハードウェア要件, 1-3

め

メモリー要件, 1-3